

東京・多摩地域に住みたい!

パパ・ママ人気急上昇!
仕事・子育て・趣味……どれも妥協はしたくない!
いま、そんな欲張りなファミリー層の注目を集めているのが、「東京・多摩地域」。
子育て世代が住みやすいポイントをバッチリ満たす多摩地域の魅力を、
いまどきイクメンファミリーの声とともに、お届けします!

Photo >> MIHO FUJIKI Text >> MORIYUKI HATAYAMA (partisan)

たま発!

子育てするなら
多摩地域が
おすすめにゃ〜



多摩の住みやすさポイント

1 子育て環境が整っている

のびのびと子供を育てるために欠かせない自然が豊富。気軽に出かけられる中小規模の公園だけでなく、さまざまなアウトドア・アクティビティを楽しめて、休日に家族のお出かけスポットとしても人気の高い大型公園も数多くある。また、日々の買い物や休日のお出かけ先として便利な大型の商業施設が充実していることも、見逃せないポイント。



多摩の住みやすさポイント

3 趣味も楽しめる環境

大きな公園や自然が溢れる多摩地域は、昨今増え続けているアウトドア志向のファミリーにも好評を博している。ランニングやサイクリングなどのアクティブスポーツはもちろん、ピクニックやBBQ、デイキャンプといったライトなアウトドアを楽しむにも、うってつけの環境が揃っている!



「多摩の魅力発信プロジェクト」
マスコットキャラクター「たまらんにゃ〜」
「たま発!」こと「多摩の魅力発信プロジェクト」の詳細については、4ページへ。



多摩の住みやすさポイント

2 都心部への通勤にも便利



思い描く理想のライフワークバランスを実現するためにも、通勤にかかる時間は大きな問題。その点、多摩地域は都心から1時間圏内のところも多く、メリットを感じるファミリーは多い。しかも、ただ都心へのアクセスだけでなく、住居費や生活環境とのバランスを考えると、むしろメリットが勝ると考えるファミリーも多いのだ。

緊急アンケート

Q 子育てするまちに求める条件はなんですか?

- 1 自然が豊か
- 2 買い物に便利
- 3 通勤に便利

のびのびと子供を育てるためにも、豊かな自然が重要と考える家族が多い。休日の過ごし方としては、ショッピングモールでの買い物とらんで、デイキャンプやBBQなど、友達や家族と自然に親しむという意見も多かった。また、イクメンパパの現実として、通勤時間も切実な問題のようだ。
※FQ JAPAN編集部調べ(読者へのメールアンケートより)

いまだきイクメンファミリーの「多摩ライフ」をレポート!

密着取材したんだにゃ〜



畑には、甘長（あまなが）とうがらしやミニトマト、ジャガイモなどの野菜のほか、バジルなどのハーブも。

夫婦ともに野菜作りが大好き。新鮮な食材は手に入るし、地域に馴染むきっかけ作りにも。



知り合いのついで、自転車で15分程離れた大学の敷地内で活動する畑のコミュニティに参加。夏から秋にかけてオクラやカボチャ、枝豆の収穫が待っている!



市が配布している密閉バケツとばかし肥も活用。生ゴミは、これで肥料にして、畑で使っているそう。ベランダには、ハーブのプランターも。



フリーのイラストレーターでもある奥様は、味噌や梅干しのほか、柑橘類の皮を使った自家製洗剤なども手作り。「作り手の顔が見える」食材を使えるのは、幸せなことだと思います」(佳代さん)。

TAMA LIFE 01

小金井市 | 山口さんファミリー

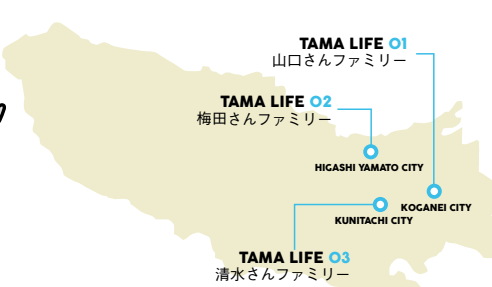
山口洗輝さん(29歳) / 食品流通関連(勤務地:港区)・佳代さん(41歳) / フリーランス(イラストレーター)・芯ちゃん(10ヶ月) ◎住まい: マンション(賃貸) / 通勤時間: 約1時間(洗輝さん)



「もともと住んでいる地元の人と、新しく入ってきた人が、ちゃんとながれる、そんな関係性のバランスがいいところだな、と思います」(洗輝さん)。

山口さん一家は、ご主人の転勤を機に4年前に大阪から現在の賃貸マンションに引っ越してきた。たまたま内見に訪れた今の部屋の周囲の静けさや、ベランダから見える緑溢れる風景が気に入って決めたのだとか。

「僕は、学生の頃から自然や農作業が好きで、妻との2回目のデートも稲刈りだったんです(笑)。ここにきてから知ったんですが、野菜の直売所もたくさんあって、朝市なんか近くでやっていたりする。そこで地域の人と知り合って、週末農園の仲間とのつながりも広がったと、ご主人の洗輝さん。おかげで、いまや夫婦共通の趣味である週末農園も存分に楽しめるし、直売所や朝市で新鮮な野菜が手に入ることから、奥様は離乳食にもおおいに活用しているのだとか。



都心の職場まで1時間ちょっと。 自然溢れる公園も近いし 買い物にも不自由しない。



近所の公園で
ランチを食べたり
するそつだにや〜



TAMA LIFE 03

国立市 清水さんファミリー

清水貴大さん(39歳)／営業(勤務地：立川市)・文佳さん(35歳)／専業主婦・くるみちゃん(9歳)・涼太郎くん(6歳)・温友ちゃん(9ヶ月) ◎住まい：戸建て／通勤時間：自転車で約10分(貴大さん)



清水さんファミリーは、長女のくるみちゃんが生まれてしばらくは、奥様が生まれた神奈川県横浜市で暮らしていた。ご主人の転勤をきっかけに、国立市のアパートに引っ越し、3年前に現在の戸建て住宅を購入したそう。「今の仕事場に異動が決まった際、小学生の娘が転校したくないというので、家を買う、つまりは永住するという決断をしました」と貴大さん。「まち全体の作りがゆったりしていて、自然も豊富。毎年春には、すぐ近くの通りの桜がとってもきれいで、主人のお気に入りです。子供の学校を中心に地域とのつながりも広がって、理想に近いライフスタイルを実現できていると思います」と、妻の文佳さんも大満足の様子だ。



パパは、自転車通勤できるんだにや〜

職場は、自転車で10分の距離。「知り合いばかりなので、営業の仕事で外に出ても気が抜けませんよ(笑)」と貴大さん。でも、歩いて3分のところに公園があり、気軽に家族で遊びに行けるのには満足しているそう。くるみちゃんと涼太郎くんが習うピアノの練習ができるのも、戸建てならではの。



TAMA LIFE 02

東大和市 梅田さんファミリー

梅田 旭さん(33歳)／不動産関連(勤務地：千代田区)・由佳さん(36歳)／事務職(派遣社員、勤務地：東大和市)・結垂ちゃん(5歳)・凛ちゃん(3歳) ◎住まい：マンション(分譲)／通勤時間：約1時間(旭さん)



元々ご主人の実家が隣の立川市で、仲のいい友達も住んでいることや、実家の両親にお子さんの面倒を見てもらったりできるので、現在のマンションを購入したという梅田さん。「子供との時間はどうしても週末になりますが、都心よりむしろ自然溢れる郊外に出かける事が多い。子供も身体を動かすのが大好きだから、ときどきアスレチック施設のある大きな公園に出かけます。近所にも公園がありますから、気軽に出かけられていいですよ。ちょっとした時間でも、娘たちと行けますから」と旭さん。「昨日は、すぐ近所の公園で、お弁当を食べました。商業施設も充実している立川駅周辺に出かける事も多いですね(由佳さん)」。



とってもアクティブな結垂ちゃん・凛ちゃん姉妹。週末はパパと一緒に、ランニングバイクの練習に出かけたりする。



週末の家族の時間を大事にする旭さんは、なるべく仕事を家に持ち帰らないようにしており、通勤時間を読書や仕事の勉強に活用しているそう。

多摩の魅力に惹かれて 永住を決意！ 緑も豊富だし 地域とのつながりにも大満足。



現役多摩ファミリーも太鼓判を押す！ 東京・多摩地域 人気のひみつ

前のページでご紹介した3組のイクメンファミリーは、それぞれの多摩ライフを満喫している様子。ここでは最後に、そんな多摩地域の魅力についてもう一度まとめてみよう。



公園・自然

気軽に遊びに行ける場所や
豊富な自然は何より魅力



ブルやバーベキューガーデン、ドッグランにスポーツ施設など多彩なアクティビティが楽しめる「昭和記念公園」、16haの雑木林でバードウォッチングができ、公園内に「江戸東京たてもの園」もある「小金井公園」、雑木林と谷戸（丘陵に切れ込んだ谷間）の組合せで、豊かな里山の自然が残された都立で最大の都市公園「野山北・六道山公園」など、小規模公園だけでなく、特徴ある大型公園も多数。



「公園の近くに畑や個人店があって、朝市が開かれていることも。利用者もユニークな人が多い」（山口さん）。



「近所の小さい公園もいいですが、一番下の子供がもう少し大きくなったらファミリーキャンプにも出かけたい」（清水さん）。

通勤

ほぼ1時間圏内！
通勤時間を賢く活用する手も



今回取材した3家族は、多摩地域北部にお住まいの方が多かったが、中央線や西武線などを活用することで、新宿駅や東京駅などの都心部へもほぼ1時間程度で通勤が可能。また、始発電車を選んで、通勤時間を読書や仕事の準備に活用するという手も。仕事だけでなく、子育て時間や生活環境とのバランスを考えれば、メリットは少なくない。



「通勤がちょっとキツイと思う事もありますが、住居費や生活環境のことを考えてここ（東大和市）にしました。休日に都心に出て行くことはまずないので」（梅田さん）。

多摩地域に
住みたい！

大学・地域

子供が大きくなっても一緒に住める
学校拠点に地域間の交流も



多摩地域には、大学のキャンパスが数多く存在する。地域とのつながりを重視している大学も多く、家族で参加できる講座やイベントなどを開催したり、ボランティアなど学生の地域活動も活発だ。子供が大きくなっても一緒に住めるというメリットもある。



「近所の大学では、格安のサッカー教室やダンス教室も。大学のあるまちって住みやすいですね。また、子育てを卒業された方々が子供達のソフトボールを指導してくれたり、大変活躍されています」（清水さん）。

ショッピング

大型商業施設が続々進出
都心に出るより近くて便利。交通機関も賢く選択



八王子、立川、町田などのターミナル駅のほか、ショッピングモールやアウトレットも充実。井の頭公園と隣接する吉祥寺駅周辺もショッピング＆お出かけスポットとして高い人気を誇る。今回取材した3家族も、口を揃えて「都心にでかけるより、多摩で」と語っていた。子育て応援をテーマとする施設やショップも多く、ますますファミリー層の人気は不動のものに。



「クルマだと渋滞が嫌なので、むしろ電車やバスで出かけることが多いですね」（梅田さん）。

遊ぶ、働く、暮らす。近くで、かなう。「多摩の魅力発信プロジェクト」展開中!!



多摩の魅力発信プロジェクト

多摩30市町村のお役立ち情報やイベントなど、特設ホームページには情報がいっぱい！



平成25（2013）年、多摩地域が東京移管120周年を迎えたことを機に東京都では「多摩の魅力発信プロジェクト」、略して「たま発！」をスタート。東京でありながら、豊かな自然と都市の利便性がバランスよく融合する多摩地域の魅力を発信するこのプロジェクト。28年度は、「30たまじまん大作戦！」として、多摩30市町村の協力の下に収集した、多摩地域に住みたくなる自慢ポイントをFacebook「たま発！ギャラリー」・Twitter等で発信。リニューアルした特設ホームページもチェック！

「たまらんにや〜がズバリ解説！」

多摩地域の魅力を発信しているにや！



特設HP <http://tama120.jp/> Facebook <https://www.facebook.com/tamagallery> Twitter <https://twitter.com/tama120th>